

# 千年の森便り N095

2011. 08. 15

ちば千年の森をつくる会  
http://www7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/  
事務局長 伊藤道男  
sennennomori@hotmail.co.jp

## お知らせ

### 9月の活動日

日 時：9月19日(祝) 9時30分 県民の森「木のふるさと館」駐車場集合  
活動内容：ニホンジカ調査、ヒメコマツ調査など

### 10月の活動日

日 時：10月10日(祝) 9時30分 県民の森「木のふるさと館」駐車場集合  
活動内容：「秋キノコと植物の観察会」 講師 中央博物館 吹春俊光氏  
会員以外は保険料・資料代実費(200円程度)を頂く予定です。

## 活動の記録

8月9日(火) 晴

参加者：新井通子、伊藤道男、岩崎夫妻、苅米均、坂本文雄、久我哲也、久我則子、栗山忠俊、中田利明、中田真也子+5、福島成樹、真鍋昌義、村野忠夫、山口衛 会員20名

千葉菌類談話会13名、自然観察ちば8名、その他6名、吹春俊光講師、加藤恵美子講師 合計49名

### 「夏のキノコと植物の観察会」

キノコだけでなくキノコと共生関係にある植物の観察・学習と欲張って企画した観察会。講師：県中央博物館吹春俊光氏、市原市の加藤恵美子氏、参加は千年の森会員に加え、千葉菌類談話会、自然観察ちばの会員など講師含め49名。8月にキノコがあるか？との事前の不安に反し、森はキノコの大群生、吹春先生の楽しいお話を聞きながら多くのキノコを観察・学習しました。

また菌類と共生するとされるクロムヨウラン等の植物を観察し、加藤先生の菌切れのよいお話を耳を傾け、森で営まれている樹木とキノコと草花たちの関係を少し理解できるようになりました。猛暑の中、大きな森の木の下で、楽しい充実の観察会でした。吹春先生、加藤先生有難うございました。平日の仕事をやりくりし遠路ご参加下さった皆様のお陰で、「夏のキノコと植物の観察会」は大盛況でした。お疲れさまでした。(真鍋)

			
総勢 49 名の大観察会	身振り手振りの吹春講師に聞き入る	千年の森の象徴であるセイタカイグチ、ベニイグチ	解説を聞きながら観察、図鑑と見比べ、忙しく撮影

### ○ キノコ観察ツアー

吹春先生の案内でホテイ岬方面に向かい広場を出たとたん沢山のキノコの群生、まずは白い大きなキノコが目につく、実はベニイグチに白いカビ、トゲのあるシロオニタケ、アメリカイログワリ、シロタマゴテングタケ、ドクツルタケとの違いなど、次々に現れるキノコの説明に先生は大忙し。「これは千年の森を代表するキノコです、食べられません、柄の縦網目が特徴・・・」との説明に皆の視線が集中する。

マダケ林手前にカビないベニイグチの大群生、アカヤマドリ、ウコンハツ等など、あまりのキノコの多さにツアーは前進せず、ホテイ岬のはるか手前で折り返す。帰路もホウキタケの仲間等に出遭い前進しない。この日の圧巻

は切株や立木に群がる木材腐朽菌・ナラタケモドキの大群生、ツチアケビとの共生関係の話を聞きながら、撮影も大忙し。千葉菌のベテラン組はツアーを離れそれぞれの嗅覚を頼りに、キノコ狩りを楽しみました。(真鍋)

- 吹春講師キノコのお話** 採取・同定したキノコを前に先生のキノコのお話の内容を要約します。
- ・今日の観察会では、房総半島シイ・カシ林を代表するキノコ、千年の森を代表するキノコが多く採れた。
  - ・ベニイグチの見分け方と特徴、東アジアのシイ・カシの森に多い、千年の森の特徴を非常によく表している典型的な象徴的なキノコである。これはぜひ覚えてほしい。
  - ・セイタカイグチの特徴、これもシイ・カシ林やコナラ林の特徴的種類。千葉県全域ではなく南房総のシイ・カシ林から採集されている。今日は特に多かった。千年の森のバッチにしたい。セイタカイグチとベニイグチは千年の森会員は是非覚えてほしい。
  - ・ハイカグラテングタケは、ネパールまで広がる東アジアの照葉樹林帯に分布する。千年の森がネパールまでつながっていることを証明するキノコであり、めっちゃくちゃ貴重なキノコ。
  - ・ハナガサイグチはシイ・カシ林の特徴的キノコ。千葉県で初めての記録。
  - ・ハイライトは今日たくさん採れたナラタケモドキとツチアケビの共生関係、ナラタケはツチアケビを養っているキノコ。ナラタケは森の倒木などを強力に分解する木材の腐朽菌である。ナラタケの菌糸束は針金状の菌糸が束になったつやつやした菌束を森の中に張りめぐらして倒木とか立ち枯れした木を探しまわっている。菌糸束を出して餌を探して見つかる分解する森の掃除屋さんの代表例である。とにかく強力なキノコである。そういうキノコを栄養にしているのがツチアケビである。そして両者の「だましだまされ」の共生関係が詳しく面白く語られました。このほか24種について先生の熱演に皆さん興味深く耳を傾けました。各キノコの食・毒や食べ方については参加者の体験も披露され、お話が盛り上がりました。(真鍋)



**○観察・同定されたキノコ：44種**

イグチ科とテングタケ科が多いのは季節のせいでしょうか。ハナガサイグチは千葉県では初確認です。赤書は吹春先生が「千年の森を特徴づけるきのこ」とされている5種です。アンダーラインは今回県中央博のキノコ標本として保存された20種。(村野)

イグチ科	<u>ベニイグチ</u> 、 <u>セイタカイグチ</u> 、キアミアシイグチ、キヒダタケ、ヤマドリタケモドキ、コガネヤマドリ、ニセアミアシイグチ、クロアサアワタケ、キイロイグチ、 <u>ハナガサイグチ</u> 、ニガイグチモドキ、ミドリニガイグチ、ニガイグチ属 アカヤマドリ、アメリカウラボニイロガワリ類似種、オニイグチモドキ、アワタケ属 (17種)
テングタケ科	ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ、コテングタケモドキ、ガンタケ、ウスキテングタケ、シロオニタケ、フクロツルタケ、 <u>カブラテングタケ</u> 、キリンタケ、 <u>ハイカグラテングタケ</u> 、カバイロツルタケ (11種)
ベニタケ科	ウコンハツ、ドクベニタケ、ベニタケ属、チチタケ属 (4種)
キシメジ科	ヒロヒダタケ、ナラタケモドキ (2種)
その他	<u>ポタンイボタケ</u> 、キアシグロタケ、アラゲキクラゲ、フサヒメホウキタケ、クロヒメオニタケ、ミヤマザラミノヒトヨタケ、ハラタケ属、マスタケ(?), イボタケ属 (9種)

オニイグチモドキは中央博で顕微鏡検査の結果、同定されました。その他は現地での同定です。

**○ 森の植物と菌類の共生関係について**

加藤講師から分かりやすくお話いただきました。  
菌根菌が樹木からどのように栄養を得ているか、菌類は植物の根を保護し根に水や無機塩類を送っていること、その見返りに植物は光合成で作出した糖を菌に与えていること、つまり共生関係にあること。この関係は小さな実生の時から、木が枯れるまで続くこと。ランはラン菌がないと生きられない植物と言われるが、実は多くの植物は

「菌との共生」なくしては生きられないこと。ムヨウランの仲間が熱帯から温帯へ分布を拡大するとき、利用する菌を変化させながら種分化を起こしてきた数億年の歴史。そして菌と植物の共生関係で豊かな森が成り立っているという感動的なお話でした。(真鍋)

### 花たちが告げる豊かな森の秘密



クロムヨウラン;房総丘陵のごく限られた場所で見られる。(千葉県重要保護生物:B)

初めて訪れた千年の森ですが、クロムヨウランがこれほど群生していることに、とても驚きました。またツチアケビやシャクジョウソウも、他の地域と比べると密度が高いです。この地はキノコがたくさん発生しますが、このような菌従属栄養生物の多いことでも、菌類が豊かであることがわかります。目には見えなくても、豊かな森には豊かな菌が生きている。そのことをこれらの美しい花たちは、私たちに告げているのですね。

(文、写真とも加藤恵美子さん\*)



シャクジョウソウ;普通はクリーム色。このような赤い色のものは珍しい。(千葉県重要保護生物:C)

\*ブログ「千葉の自然見〜つけた」8月11日記事をご覧ください。

<http://blogs.yahoo.co.jp/emi3merlin/45405894.html>

### ○ 「千年の森のキノコとの出会い」

遅く生きるキノコの姿を体験し、キノコの世界の素晴らしさを知り、のめり込みそうです。日本の森の動物しか見たことが無く、いきなり像やライオンやキリンをアフリカ大陸で体験した様な感じでした。吹春先生の分かり易くキノコの種の特徴を説明して頂きタダタダ感心して聞いていましたが、メモが追い付かなく歳の所為か70%は忘れていまいましたが、菌根と植物の根との共生関係。DNAの調査で種のルーツが判明し、形からは種を断定出来ない世界である事が判明し、そのルーツは国境を越えた歴史が分かる壮大なロマンの話に繋がる事に目から鱗でした。また、加藤先生のお静かに外生菌根菌やツチアケビの話が語られ、森の精が語っているがごとく聞き入りました。(斎藤清:自然観察ちば)

### ○ キノコ観察会の感想

清和県民の森に年4、5回はきのこ探しに出かけますが、豊英島の存在は全く気づいていませんでした。恥ずかしながら、「ちば 千年の森をつくる会」なる、名前も存じておりませんでした。

さて、つり橋を渡り豊英島に入った瞬間、あっ、何んか違う、と直感。道らしい道はあるが足跡がない。樹木がまばらに生えて木漏れ日が差している。地面に下草がなく刈り取った形跡はない。落ち葉が堆積している。エビネがちらほら、カンアオイも見かける。目指しているきのこもある。おお、これが保護された森なのだ。凄い!

私は、植物には興味あるが、もっぱら、きのこに主力を注ぎ、地面や樹木の根っこばかり探し回る。念願のアカヤマドリ、1本発見。老菌に近いが形がいいので大事に採る。ナラタケモドキは発生場所が多かったが、採取した跡は見かけなかった。ナラタケモドキを食べるメンバーが少なかったのだろうか。ベニイグチ、アメリカウラボシイロガワリは、形と色合いが気に入り採取する。

きのこを探し回っている途中、20人ぐらいの集団が、そろり、そろりと足もとを探しているのに出会った。きのこ共生するクロムヨウランの観察最中とのことだった。この情景を観て、小さな植物も大事にする集団なんだなあ、と感心、感激しました。次回開催予定は10月10日とのこと。ぜひ、参加したいと思います。会長さんはじめ、スタッフの皆さま、講師の吹春先生、加藤先生、どうもありがとうございました。(宮林:千葉菌類談話会)

### ○ ナラタケに思う

今回の学習会の中で一番印象に残ったのは、ナラタケが獐猛な菌であり、非常に優秀な森の分解者であるということでした。いつもの森の整備作業の中で、枯れ木に根のようにくっついていていた堅い針金のようなものが、ナラタケの菌糸束であったとは! 森の奥深さに改めて感動しました。(福島)

### ○ 植物観察の案内

日程設定が的中し、クロムヨウランとシャクジョウソウの両方が開花しているタイミングで案内できました。ツチアケビは前もって撮影した生長段階と花の写真を用意して眼前の実の状態と見比べてもらいましたので、理解が深まったと思います。尚、観察が終わったので厳重に保護していた金網を取り外して、自然の状態に戻しました。動物に食われる事で種子散布をしているとの説がありますから、近くにセンサーカメラを設置しました。何が写るか楽しみです。

マツグミは松やモミの木に付くヤドリギの一種です。千葉県では保護上の重要な野生生物の 카테고리-Bです。

この珍しい植物が千年の森で赤い花を咲かせていました。たまたまモミの木の下を通った時、地上に見慣れぬ花が落ちていたのが発見のきっかけです。地上から10メートルも上なので、普通のカメラでは写真も撮れず、野鳥撮影用の望遠レンズを使いました。青い実がやがて赤くなるそうですから、引き続き観察して行きます。

坂本(文)



## 「その他の活動など」

### ○ 野鳥記録

カワウ2 トビ5+声 オオタカ1\* コゲラ1+声 ツバメ3 ヒヨドリ1+声 ウグイス囀り エナガ声 ヤマガラ2+声 シジュウカラ声 メジロ声 カワラヒワ囀り カケス声 ハシブトガラス2 ハシボソガラス声 合計 15種

\*印のオオタカは初記録で加藤さんが豊英島からの帰路、目撃しました。 坂本(文)

### ○ カンパ報告

夏のキノコの観察会の参加者からカンパをいただきました。さっそく、保険代、資料コピー代の一部に充当させていただきました。ありがとうございました。(事務局)

### ○ 新入会員のご紹介

宮林八男さん(東金市在住)を新たに会員としてお迎えしました。千葉菌類談話会に所属とのことですので、千年の森の魅力のさらなる発見に大いに力になっていただけたと思います。よろしくお願ひします。(事務局)

 **セブン-イレブンみどりの基金**  
一般財団法人 **セブン-イレブン記念財団**

この活動は 2011 年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の  
公募助成を受けています